



津田塾大学

TSUDA UNIVERSITY

# 政策評価による課題の解決

政策評価に関する統一研修(中央研修) 2018

2018年1月16日

津田塾大学

森田 朗

- 政策評価制度の導入

- － 社会環境の変化への対応
- － 行政改革
- － 国民への説明責任

- － 経済成長の鈍化

- － ムダの削減

- － 行政批判に対する弁明

- 政策評価の現状

- － みえない効果
- － ペーパーワーク

- － 予算は増えたか？

- － 作業効率が下がる業務量

- 政策とは？

- プログラム

- システムの諸要素のコントロールによる課題解決

- 政策手段：①権力(規制)、②経済的誘因、③情報提供

例：

- 交通安全

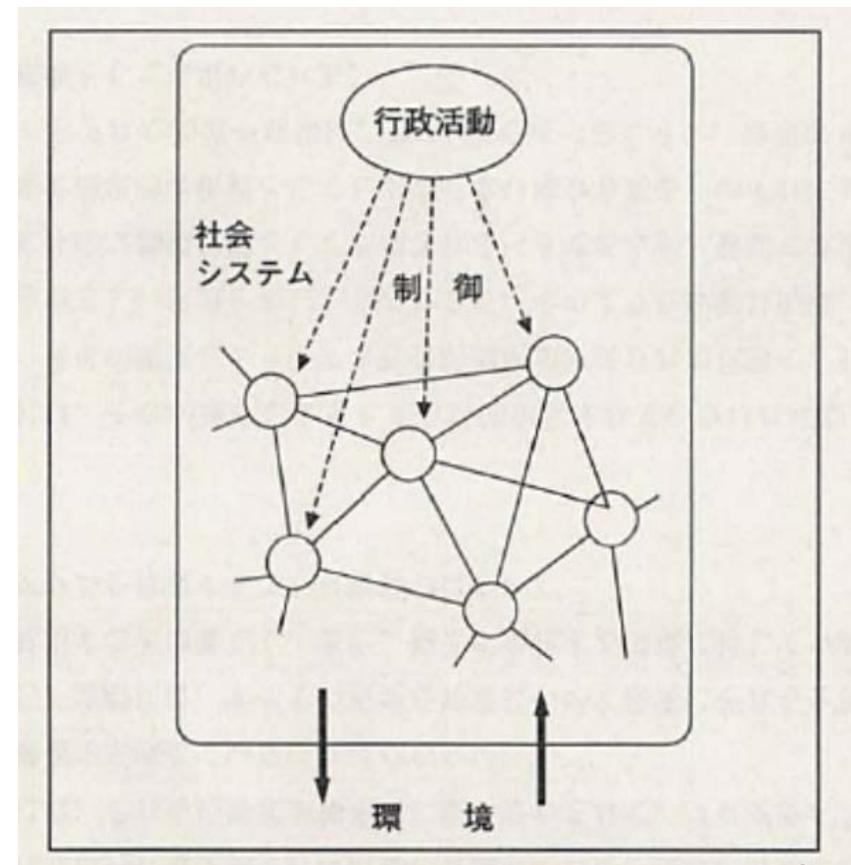
= 自動車、運転免許、交通ルール、道路、環境保護、

- 医療

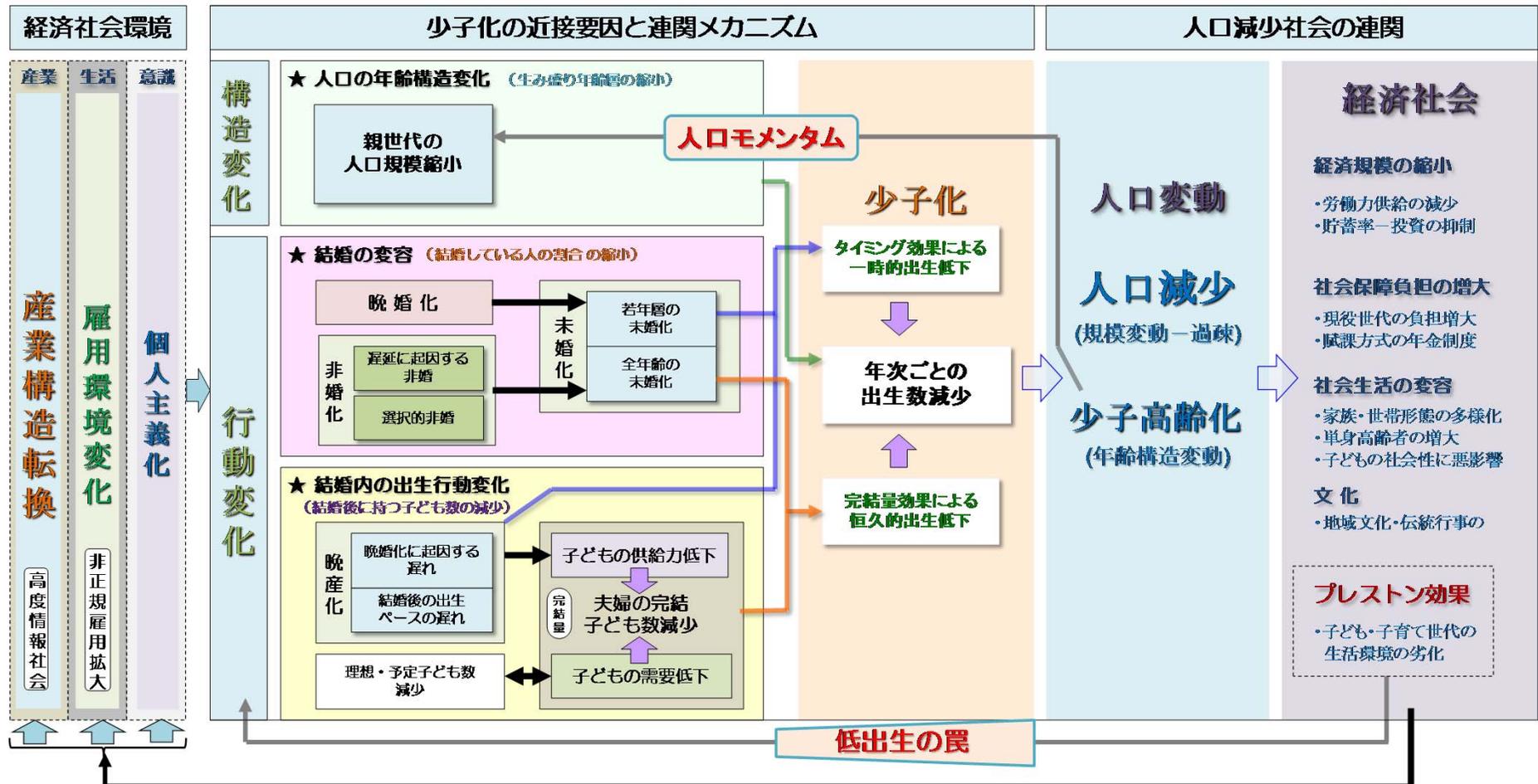
= 医療従事者の資格、医療機関の基準、医療提供体制薬剤、医療機器、医療保険…

- 地方創生

= 人口増 ← 雇用創出 ← 地域振興 ← 補助金



# 少子化を中心とする人口減少社会の連関図



## 【少子化のメカニズム】

- ・ 少子化（年少人口割合の減少）は、親世代人口規模縮小（構造変化）と出生確率の低下（行動変化）によって起こる。
- ・ 出生確率の低下は、晩婚化・晩産化による一時的なもの（タイミング効果）と、完結出生児数減少による恒久的なものがある。前者は晩産化の終息により回復するが、後者は機械的には変化しない。
- ・ 少子化は、人口減少と少子高齢化の原因だが、次世代の親世代を縮小させること（構造変化）によって、将来の少子化の要因となる（縮小再生産）。

## – プログラムが期待通りに作動するか？

- プログラムのデザイン

- 課題を解決できるか？ 目的を達成できるか？

- 科学的知見とデータに基づくデザイン = EBPM

- 十分な根拠 (evidence) とロジック (因果関係)

- 科学的知見に基づいているか？

- policy-biased evidence の危険

- PDCAサイクル

- 実施してみて目的達成できない場合、根拠とロジックを見直す

- P(政策) がしっかりと作られていることが前提

# ● 政策過程と政策評価

## ● 政策過程

- ① 課題設定
- ② 原案(プログラム)作成 —
- ③ 審議決定=法制化・予算化  
— 審議会・国会 —
- ④ 実施・執行(アウトプット)  
— 政策・施策・事業 —
- ⑤ 課題解決?(アウトカム)

## ● 政策評価

- ① プログラム評価(事前評価)
- ② 法制度の実効性評価
- ③ 実施過程のモニタリング
- ④ 結果の判定(事後評価)

↓  
課題の再認識  
プログラムの修正

**※政策過程と政策評価は並行する流れ**

- 政策評価の要素

1. 目的——①自己改善、②合規性、③国民満足度
2. 基準——有効性、効率性
3. 主体——第三者性、中立性
4. 対象——アウトプット、アウトカム
5. 結果測定——数値指標、定性評価
6. 結果判定——許容値、目標値、満足値
7. 結果反映——PDC“A”

- ロジック・モデル

- プログラムの具体化—法制度、予算、組織体制
- 実効性・実現可能性の事前評価
- 実行後期待された効果の事後評価

- 現実の政策決定

- ①不確実性 ②タイムリミット ③ステークホルダー

- 政策のレベル

- 法制度(政策)、施策、事業
- プログラムの可視化—評価資料

- 現実の評価の問題点
  - 政治の影響
  - 予算との外的制約
  - 民間の協力
- 政策評価の評価
  - 効率化と省力化
  - よりよい政策改善の手段に！